

兵庫県医師会医療支援チーム（第31陣）「宮城県災害支援現地報告」

加古川市加古郡医師会 河合 勝

ところどころで被災家屋を見ながら石巻中学に到着 第30陣の安堵感の漂った顔と これからの緊張した顔との引継ぎを終え午後3時前から活動に入った。救護所での診療 図書館、体育館の巡回を行い状況把握に努めた。1日目の終了ミーティングの後日赤での全体ミーティングに参加、石巻で活躍中のグループの多さに感動。兵庫県下からは他3医療チーム。なんとなく安心する。翌朝てきぱきとした陰下グループリーダーの司会進行のもと地元行政、保健所、新潟県医療チーム、名古屋大学心のケアチームによる担当エリア内連絡会を終えて2日目3日目と大矢先生と担当箇所を変えながら診療活動を行った。それぞれの避難所では患者数5～7人程度。ゆっくりと時間をかけ神戸の震災の話も交えて 健康管理について話した。時間があつという間に過ぎてしまい日常診療もこうあるべきかと思いながら次の避難所に移動。医薬品は有り余るほど救護所にはあるが覚えきれない。返品の方法を検討、少しずつでも整理のできたものから石巻赤十字病院に返品予定。時間のたつのは早く 少し緊張した顔の32陣と交代。

日和山公園から見る津波に襲われた地域とそうでない地域のあまりの違いに愕然。北上川のごみサルベージ船が乗用車を吊り上げ人々が駆け寄る光景を目撃 言葉を呑んだ。

救護所の縮小撤退は正しい方向と思われるが 被災者は今後の医療チームの活動について話を聞かされるとさみしそうな顔になる。